

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

率先しよう Lead The Way

RI 会長 ウィリアム・ビル・ボイド



2006 ~ 2007

残心 に あり

富津中央 RC 会長 永島 強

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

1981 第6回例会 2006.8.10 晴

点 鐘 : 永島 強 会長

進 行 : 渡辺 務 副SAA

ソング : 我等の生業

お客様 : 林 興一 様

労されました。後程終戦の思い出と題した卓話を頂きます。

幹事報告

三井 進 副幹事

会長挨拶

永島 強 会長

皆様こんにちは、昨日は台風の襲来で心配しましたが大した事もなく通過してくれ、良かったと思います。

毎年お盆が近づきますと、終戦が思い起こされます。戦いが終わり 61 年、この間日本は多くの苦難を乗り越え大変豊かな国になりました。終戦時生まれたばかりで、戦争を知らない私としてはただ感謝するのみです。

ひるがえって最近の希薄化した地域の絆・人と人の思いやり、そして犯罪の増加、子供の虐待、悲惨な事件、孤独死、等々悲しむべき社会現象を見ると、私達は経済的な豊かさを享受する内、精神的に何かを失ってしまったのかと思われます。

「今日の繁栄と平和」は大戦でふるさとや家族を思いつつ尊い命を失われた方々、負傷された方々が礎となって築かれた事を決して忘れてはならないと思います。

お客様を紹介します。佐貫在住の元市会議員林興一様です。終戦後シベリアに強制抑留され御苦

1. 木更津 RC から例会変更の案内

日時: 9/27 (水) 12:30 ~

場所: ホテルロイヤルヒルズ 八宝苑

2. 富津 RC から例会変更の案内

日時: 8/14 (月) 19:30 ~ (8/15 を変更)

場所: ホテル山の上 会員家族納涼花火大会

日時: 8/29 (火) 17:30 ~

場所: 金谷『ザ・フィッシュ』 夜間移動例会

3. 地区大会の案内

日時: 10/28 (土)、10/29 (日)

場所: ホテルニューオータニ幕張

4. 記念ゴルフ大会の案内

日時: 10/2 (月)

場所: 鶴舞カントリークラブ

〆切: 8/31 (木)

〒293-0042 富津市小久保 2868

さざ波館

Sazanami-kan

2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,

Zip code 293-0042

Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304



委員会報告

ガラクタコンサート実行委員会

渡辺 務 実行委員長

8/19(土)の役割分担表を作成仕直しました。
当日の流れをより解りやすくしましたのでよろしくお
願いいたします。

別 添

ガラクタコンサート実行委員会

高島治雄 会員

コンサート打上げ会を下記のとおり行います。
日時:8/19(土)16:00～(大貫小の片付け終了後)
場所:さざ波館(例会場)オードブル形式
主催:富津中央RC 担当 高島・三平
費用:3,000円/人
参加者:演奏者・協力各団体役員・クラブ会員

会費納入方法について

会計 原田雅式 会員

会費納入方法についての案内を作成しましたの
で、ご活用願います。

別 添

卓話 『戦時中、戦後のシベリア回想』

元市議会議員 林 興一 様



ご紹介を頂きました、林でございます。栄誉ある
富津中央RCの永島会長の招聘により、シベリア抑
留体験の一端を発表させていただきます。

別 添

ニコニコBOX

三平榮男 親睦委員

三井 進 モンゴルで、満天の星を見てきま
した。

石渡 鋼 林先生のお話し感動しました。

永島 強 ”

合計 3,000 円

出席報告

町澤清太郎 出席副委員長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	23	20	3		86.95%
前回	23	22	1		95.65%

近隣クラブ例会日(括弧書き以外 12:30)

月	君津、袖ヶ浦
火	富津(最終例会 18:30)
水	木更津東、富津シティ
木	上総、木更津

君津 RC	ホテル千成	0439-52-8511
袖ヶ浦 RC	レストランすずとみ	0438-60-1129
富津 RC	山の上ホテル	0439-67-0388
木更津東 RC	ホテルロイヤルヒルズ八宝苑	0438-23-0211
富津シティ RC	ホテル喜楽館	0439-87-4126
上総 RC	割烹旅館 山徳	0439-27-2003
木更津 RC	東京ベイプラザホテル	0438-25-8888

会費払込について

(ロータリー、上期、下期分)

各位

平成18年8月10日
富津中央ロータリークラブ
会計 原田雅式

最近、君津信組（大佐和支店）の窓口において、ロータリーの会費を現金で持参したのに、窓口にて、お断りされる、ということが、2件ありました。

会員の方には大変ご迷惑を、おかけしました。つきましては、今後下記の通りお願い致します。（8月3日 大佐和支店、次長、及び窓口の方と話し合いをしました）

記

金融機関 君津信用組合 大佐和支店
普通預金 2103507

口座名義 富津中央ロータリークラブ
会計 原田雅式（フリガナ、はらだまさのり）

① 店頭で現金払込の場合

窓口で 振込み用紙に上記口座名、番号を記入して、現金と振込み用紙を渡して下さい。（手数料はかかりません）

注意 *口座番号がわからない場合は、受付してくれません。
*ロータリーの会費を払いにきまただけでは、受付してくれません。

② 大佐和支店の CD コーナー、機械にて振込み

CD機から 振込みのキーを押して、指示により現金を入金する
（やや面倒な操作があります、手数料は無料です）

③ ロータリーの例会時、事務の村田さんに、現金を渡す、領収書をくれます

④ 他の銀行から振込み（手数料が¥735円かかります） 銀行により、手数料金額が違う場合もあります。

以上

8'19(土) ガラタココンサート役割分担表

当日の流れ

9'00	RC集合 各委員集合	役割分担説明 準備品確認 会場準備	佐藤、大網、白石、千葉 (来賓接待) (参加人員把握)
11'00	ティコボ到着	楽器設置 ペッカー作成準備	石渡、高橋、榎本
12'00	最終準備	音響テスト 会場内線引き 駐車場係案内開始	原田、飯倉
13'00	客入れ	会場内案内 開会準備	平川、三井
14'00	音楽会開会	会場内案内 駐車場係引き上げ	高島、三平
15'00	音楽会閉会	会場片付け 駐車場係案内	永島、伊藤、刈込、松田、町澤、佐生、渡辺
16'00	打ち上げ		

当日ロータリアン役割分担 受付準備 (机、椅子、ビニール袋)

会場モニター、スクリーン、スライド

協力者昼食手配

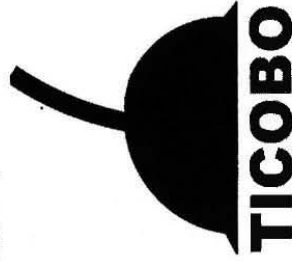
客席割付
(床テープにて位置出し)

打ち上げ手配

庶務

事前準備するもの

永島	当日来場者用飲み物	適宜
千葉	小学校のテント、教室使用許可	
白石	ビニール袋	
原田	弁当概数把握予約	
高島	打ち上げ概数把握予約	
スライド上映班	機材、展示内容	
渡辺	案内表示板、楽器展示、PA機材、扇風機 電源ドラム、名札、花束	



戦時中、戦後のシベリア回想

林 興 一 (富津市)

学徒報国隊の腕章を付けて鶴見の日本鋼管造船所に動員されていた。作業は、海防鑑の製造、特殊高速船(肉弾戦用)製造の協力である。午前八時より午後五時迄職場の空気は緊張で一杯である。その職場に南方戦線で捕虜に成った、カナダ兵が二百名程労働させられていた。殆んど身長一七〇cm位である。食事が合わないのか、下痢に苦しんでいる様である、虚の顔々が物陰で「サボって」いた。そんな行動を監視する係が叱責労働させていた。戦争と平和、戦勝国の学生と雖もこの現実、悶々の中に終着駅千葉であった。それから二、三日その光景が脳裡から消えなかったが、丁度六十三年前の学徒出陣の壮行会を想起した。小雨降る中、祖国日本の命運賭けた戦争に一切の感傷を捨て莞爾として、海ゆかば水づく屍、山ゆかば草むす屍、空ゆかば雲そむ屍に送られて、神宮の森の壮行会の有史以来の緊張、莊嚴を極めた、想出の一頁である。与謝野晶子の、君、死にたもうことなかれの詩の心か、以心伝心、雪崩の如く落ちた女学生、未だ脳裡に離れない。それから連日、東京駅は北は北海道、南は九州、沖縄の先輩、同僚の帰郷する歓送の渦で一杯

であった。私も最後佐倉入隊一週間後満州「ハイラル」に派遣、直に幹部候補生として集合教育。教育中、内地が米国の(29)の空襲を受け、或はソ連の雲行が危機との情報で原隊復帰で興安嶺に配属された、が武装喋者(スパイ)の跳梁を恣にし関東軍の威信は全く無しの状況でソ連の飛行機が時々偵察に来た。日本の飛行機は見えない。何故か、何故か、不安が募る一方である。やがて指揮官の命令が出た。「積極的攻撃はするな」と愕然とした将兵の顔々、そんな戦争があるか玉砕か? 近くには二千名程度二ヶ月籠城出来る陣地があるので皆不可解千萬の形相である。そして次に来るもの不安は、予測出来ない、終戦か敗戦か玉砕か大死か。日本は、しかし東條英機陸軍大将大臣の言は「未だ日本は敗れたるを知らません皇祖皇崇の神靈上にあり」走馬燈の様に過る。昭和二十年八月十五日終戦、軍旗を涙して焼却、興安嶺の陣地を下山、武装解除、ソ連軍の管理下に。人事係の曹長か「アンナに成って、こんなに成って、ソンナに成ったのよ」と淋しく口ずさんでいた。

ヤポンスキー(日本人) スコルダモイ東京(モウヂキに東京

（へ帰れる）と皆を喜ばせた。然し待てよ、今回の戦争参加にしても一九四五年四月五日「日ソ中立条約」を無視し火事場泥棒的に侵攻し、関東軍六十万在満邦人をも欺瞞しようとしていると明らかである。が若しや、と希望的な期待も、一寸捨て難い。しかし今にして見れば嘘八百で何一つ真実は無い。学生時代（報国隊の時の）カナダの捕虜の事を想出す。愈々二千名宛貨車に割当られ順次出発した吾々は一ヶ月位遅れて出発した。その時先発組は釜山に着いた。或は九州にと誠しやかに発表していたが吾々の貨車は南部地域で八路軍の襲撃があったので安全確保の為、ウラヂオストックから元気で日本へ帰って父母兄弟に会って下さい、と入念な説明であった。先ず「チタ駅」で東か、西か、東なら「ウラヂオ」西なら「シベリア」前に機関車がつけばウラヂオ、後につけばシベリア色々な予測が飛んだ。嘘つきのロシアだ。腹を決めて待つこと三十分、連続のショックか前後一回ずつ、何と前後に機関車が付いた。途中で切離されるのかと一瞬不安だったが確認出来ない、輸送されている貨車は牛馬を運ぶ貨車で窓は高いところに左右一個ずつ。その窓も外から針金でからんである。次の小休止の時に確認したら確かに前後に機関車、西へ西へシベリアへと間違いない進んでいた。正に屠殺場行きの牛馬の運命の如く静寂そのもの。夫々親、兄弟の将来、自分達の行方、運命は。一日一食の粥も喉を通らない。語る気力も無い焼八である。三日位過ぎて、唯か成る様に

しか成らねーよ、勝手にしやがれ、ロスケノヤロー、バカヤロー（ロシア語では「ヨーボネ、ブロー」。もう朝、夕は大変冷込で、はく息が白色である。手、足も冷たい。諦観が付いてか、そこかしこ声が揚って賑やかに成って来た。とに角、貨車のスピードは遅い、トンネルが少いカーブ多い、前の機関車が牽引する後の機関車が押すというシベリア鉄道の大動脈である、チタの分岐点の迷が漸く分った。シベリアの原野に千数百ヶ所の日本人捕虜収容所の一つウランデ本部に近い所に下車した。二日後編成された五〇〇名で行方知れずの行軍が始った。十名程の警戒兵、夫々三十六連発の自動小銃を構へ騎馬の隊長一名、一時間半で十五分の休憩、食事は何時か分らない、毎日自動車か運んで来る時間で殆んど一日一食。最初は今日も生きてた、満天の星がとても綺麗だったが三日目から全然分らない。もう歩けない、皆に迷惑をかけるからここに置いて行ってくれ、或は殺してくれの言葉がそこかしこ。それでもソ連兵は何処迄とは全く言わない。食事が指示を持って来るといふ。行軍中ふらふらと道路から逸脱するもの、佇立して動かぬもの、殺してくれと連呼してすわり込むもの、警戒兵が威嚇して銃口を向けている危機一発である。とっさに休憩をとる。

その状況を知り乍ら無常にも出発である。仕方なしに両方から肩を入れての行軍である。次の休憩所で話を聞けば或る日、ロシア兵から甘味品を配給するから〇〇学校の前へ集合の連絡

があつた。ロシア兵が危険だからと殆ど各家庭は男が行つたところ、甘味品は嘘で男性を一網打尽で「シベリアへ」、涙を流して説明した在満の社長様でした。

同邦の為に肩を交互に交替して一ヶ月、漸く「ホーリンスク」収容所に入った。

「秋の陽をまともに浴びて、行く道の果さへ知らずシベリアの奥深く来つるものかな あ、一千里」

建物は形は成しているが丸太小屋、シベリアの流刑地の跡で南京虫の巣である。それでも露天に仰向で眠るより人間的でホツトした。丸一日、死んだ様に眠つた。愈々明日から作業である。限り無く続く、天然の大森林の伐採作業一人当り作業「ノルマ」(ノルマとは責任作業量)は六、五五立^{ツル}で六人一組で作業するから合計その六倍が責任量である。それが達成出来なければ営倉である。営倉は野天で零下60〜75度そして半減食と厳しい。しかし「ハラシーラボート」良く働けば「ノルマ」完遂すれば、東京ダモイが早く成ると欺瞞する。現実の体力からして到底出来得ない「ノルマ」である。十月より零下40〜60度、吐く息も凍り、睫毛も凍り、心も凍り、身体は栄養失調「10kg〜20kg」減り、瘦身枯木の如く、目だけ大きい、嘘と知り乍らも一日も早く祖国日本に帰りたい。満天の星に、行雲に、齊しく願っていた。ホームシック昂じて逃亡者が遂に出た。空しさ、悲しさ一杯で唯、無言。狼の餌食と成つた戦友、万斛の涙々。

シベリアバイカル湖から祖国日本は遠い遠い遠い。

休日は一切無しの重労働。発熱二十八度以上か酷い外傷だけ。神経痛、リウマチは問題外作業忌避であると。日本人の常識は通じない、喫驚仰天。こんな国があるのか。こんな国に敗けたとは残念、無念、現実には捕虜！極寒の中の重労働と飢、正にこの世の地獄、作業中の事故死、歩行中、就寝中の死亡、枚挙に暇なし、総員五〇〇名中自己管理、出来得るものなんと十五名と成りました。全く筆舌、言語に絶する生活を強制されました。過去どんな明文化された条約が締結されてあつても相手国が常識が無ければ紙屑同然であると、又祖国日本の政治家官僚の無責任、憂国の熱情に欠けている感ありです。一九〇四年の日露戦争、或は一九四〇年のシベリア出兵ありと雖も……

国家存亡の折、学徒出陣、青春を国家に捧げ又莞爾として散華した先輩、同僚、何の顔^{かんほせ}があつて見^まえる。

感懐一入のものがあつてシベリア慰霊訪問団に参加させて頂いております。

(一)モスクワ、その近辺。

(二)ハバロフスク、その近辺。

(三)クラスノヤルスクその近辺。

(四)イルクーツクその近辺。

夫々八月中、一週間の予定で去年はイルクーツク方面で新潟県の農協さんの方々観光ツアーと一緒にでした。吾々慰霊団に、

心からご苦勞様と声がかかりました。「イルクーツク」のホテルで同行の皆さんの御理解と御協力で私の收容されていた、收容所跡附近の墓地に墓参しようとして決定頂き翌々日、出発した。想出は数々ですが拙い短歌を数首

(一) 煌く星座は物云わぬ 祖国日本は彼方かと

語り続けて夜を明せり

(二) バイカルの湖面に映る月悲し 共に祖国へと

泣きしが浮ぶ

(三) 時差無しイルクーツクの夜は遅し

明日は一千軒の戦友の墓地尋ねる

四大草原にシベリア鳥は群をなし

墓参のバスを乱れつつ追う

(四) 遙々と尋ね来たるに赤トンボ

群るるが悲し唯々合掌

(五) 七竈の花乱れ咲く丘の上 土饅頭の此処かしこ

大地に滲む 戦友の無念さ

(六) 墓参のバスを追かけ乱れ飛ぶ鴉

トウキョウウーダモイと悲願の亡き戦友かも

(七) 名も知らぬ 虫の音悲し 夜もすから泣く

戦友の声と思はる

有意義の本企画に満腔の感謝申上げ、この記念誌が次世代の若者の糧と成り、愚劣の戦争のない平和が地球上に招来される様、叡智を結集されること、祈るや切である。

